

AIの動作・分析・利用方法の説明に関する アンケート調査

2025年10月23日

独立行政法人 情報処理推進機構
セキュリティセンター

1. 要約

AIシステム利用において、学習モデルの動作や処理の経緯を利用者に説明する透明性や、AIシステムの信頼性・適切な利用方法等に関する説明責任の重要性が高まっている。しかし、透明性や説明責任がAIシステム利用者にどのように意識され、実践されているかの実態は知られていない。この観点に基づき、AIシステムの動作・分析・利用方法に関する説明のあり方について、意識調査を実施した。

調査対象は企業の従業員・経営層でAIを業務利用している1600人とし、Webアンケート形式で行った。以下に得られた知見を要約する。

- 業務AI利用状況では生成AIが業種・企業規模を超えて広範に利用されるが、情報収集・文書作成等が主要用途であること、経験年数3年未満の利用者が多くAIの基本知識提供が求められることを確認した
- 説明に対する意識では、処理経緯等の透明性の説明とセキュリティ・誤用等の利用上のリスクの説明が同程度に求められ、職場で同程度に実践されていること、説明は「AI利用時に自分で参照する」形態や、プレゼンスライド・動画等の異なる媒体等が新たに求められることを確認した

2. アンケート概要

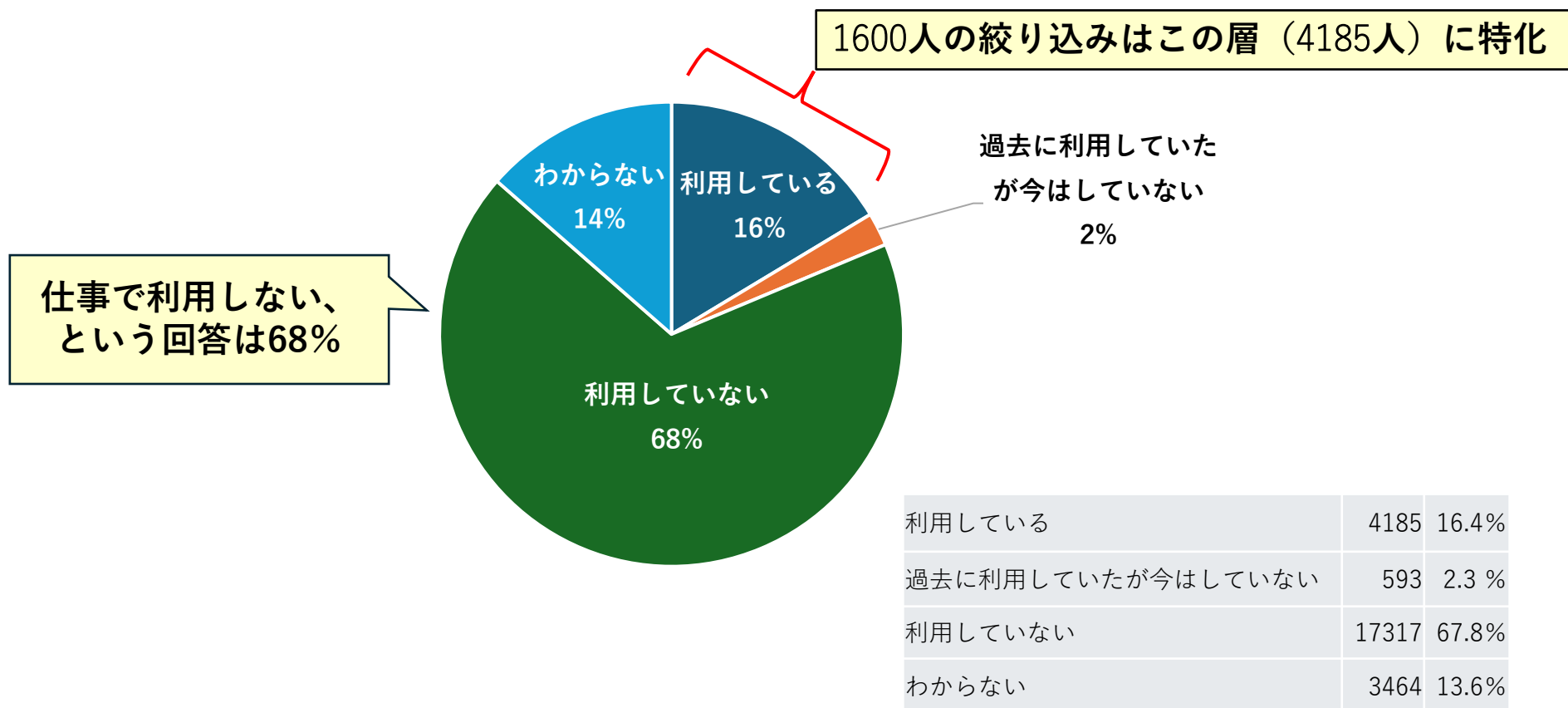
- AIシステムの動作・分析・利用方法に関する説明のあり方に関するAIシステム経験者の意識調査
- 対象 企業の従業員および経営者で、AIを業務で利用する者
企業規模（大企業・中小企業）と業種（製造業・非製造業）の4象限各400人 総計1600人
- 形式 Webアンケート
- 実施時期 2025年7月18日～27日
- 質問概要
 - AI利用の役割と経験
 - AI関連の学習経験
 - 利用の効果/課題認識
 - AIに関する情報獲得の重要性と課題
 - AIの信頼性に関する説明実施の状況と課題
 - AIの望ましい説明情報提供のあり方

3. アンケート結果

3.1 回答者属性:絞り込みの対象	5ページ	3.11 説明の提供元	26ページ
3.2 利用するAIのタイプ	7ページ	3.12 説明の提供形態	28ページ
3.3 利用者のAI知識自己評価	10ページ	3.13 説明の参照環境	30ページ
3.4 AI利用経験値	12ページ	3.14 説明用生成AIに対する意識	32ページ
3.5 AI利用分野と利用頻度	14ページ	3.15 説明用生成AIを使いたい/使いたくない理由	34ページ
3.6 AIの信頼性に関する不安	16ページ	3.16 追加分析	37ページ
3.7 利用のために参照したい情報	18ページ		
3.8 参照したい情報の重要性	20ページ		
3.9 説明の実践状況	22ページ		
3.10 説明の実践における課題	24ページ		

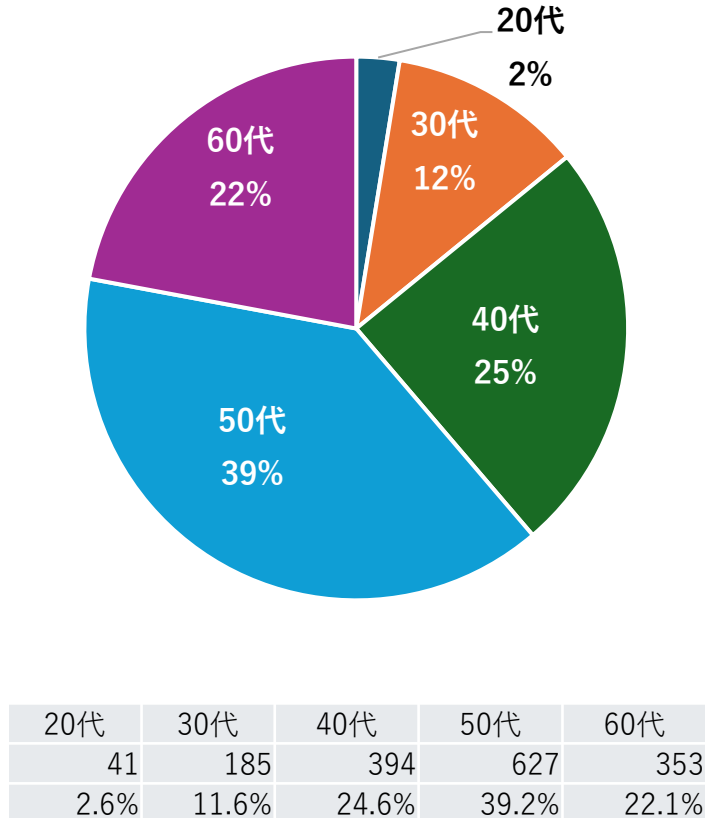
3.1 回答者属性：絞り込みの対象

SC4 あなたは仕事でAI製品・サービスを利用していますか？個人として利用することは除きます
(n=25559)

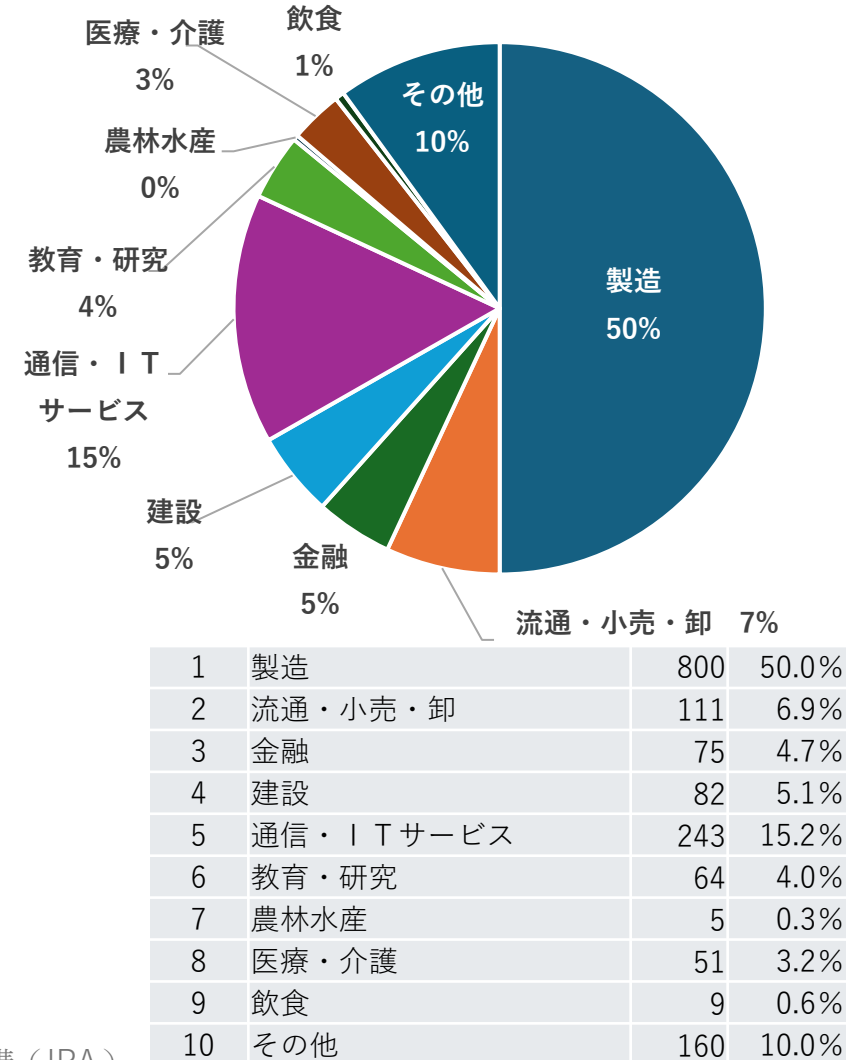


3.1 回答者属性：絞り込んだ1600人の年齢と業種

F2:あなたの年齢をお知らせください (n=1600)



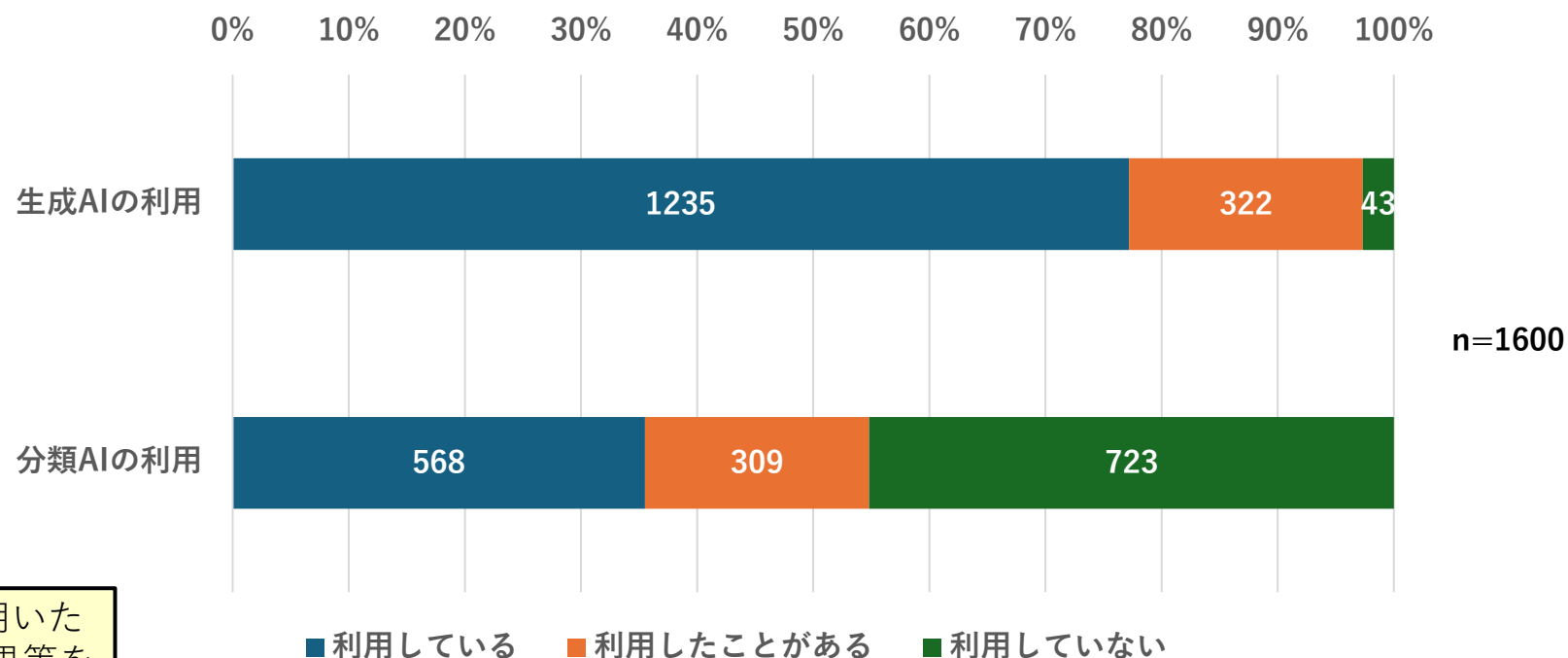
SC2:あなたの業種についてあてはまると思うものを1つだけ選んでください (n=1600)



3.2 利用するAIのタイプ

SC6: あなたが仕事で利用しているAI製品・サービスのカテゴリについて、以下の項目ごとに1つだけ選んでください
／生成AIの利用(カテゴリ: **情報収集・調査、文書作成・チェック、コンテンツ生成、ソフトウェア開発**等)

SC6: あなたが仕事で利用しているAI製品・サービスのカテゴリについて、以下の項目ごとに1つだけ選んでください
／**分類AI***の利用(カテゴリ: **自動化、監視、制御、異常検知、予測、分析**等)



*分類AI: 本調査で用いた
入力の分類・判定結果等を
出力するAIを表す名称

	生成AIの利用	分類AIの利用
利用している	1235	568
利用したことがある	322	309
利用していない	43	723

3.2 利用するAIのタイプ

- AIタイプの考え方

2022年以降急速に普及した生成AIに対し、それ以前から利用されているAIのタイプを「分類AI」とし、二つのタイプの利用状況・説明について独自の特性があるかどうかを調べる

	分類AI	生成AI
普及時期	2022年以前から普及	2022年以降普及
採用技術	機械学習、データマイニング等	機械学習、大規模言語モデル等
入出力	IN 信号・数値等 OUT 数値・分類/判定結果等	IN 自然言語・音声・画像等 OUT 自然言語・音声・画像等
用途	自動制御、監視、検知、認識、判定、分析、予測等	情報収集・要約、文書作成・チェック、翻訳、コンテンツ生成、ソフトウェア開発等
説明に対する要請として想定されること	分類・判定処理の経緯の説明が求められることが多い（処理の透明性）	多様な応用におけるリスクや対応の説明が求められることが多い（適切な利用を担保する説明責任）

3.2 利用するAIのタイプ：結果と分析

結果

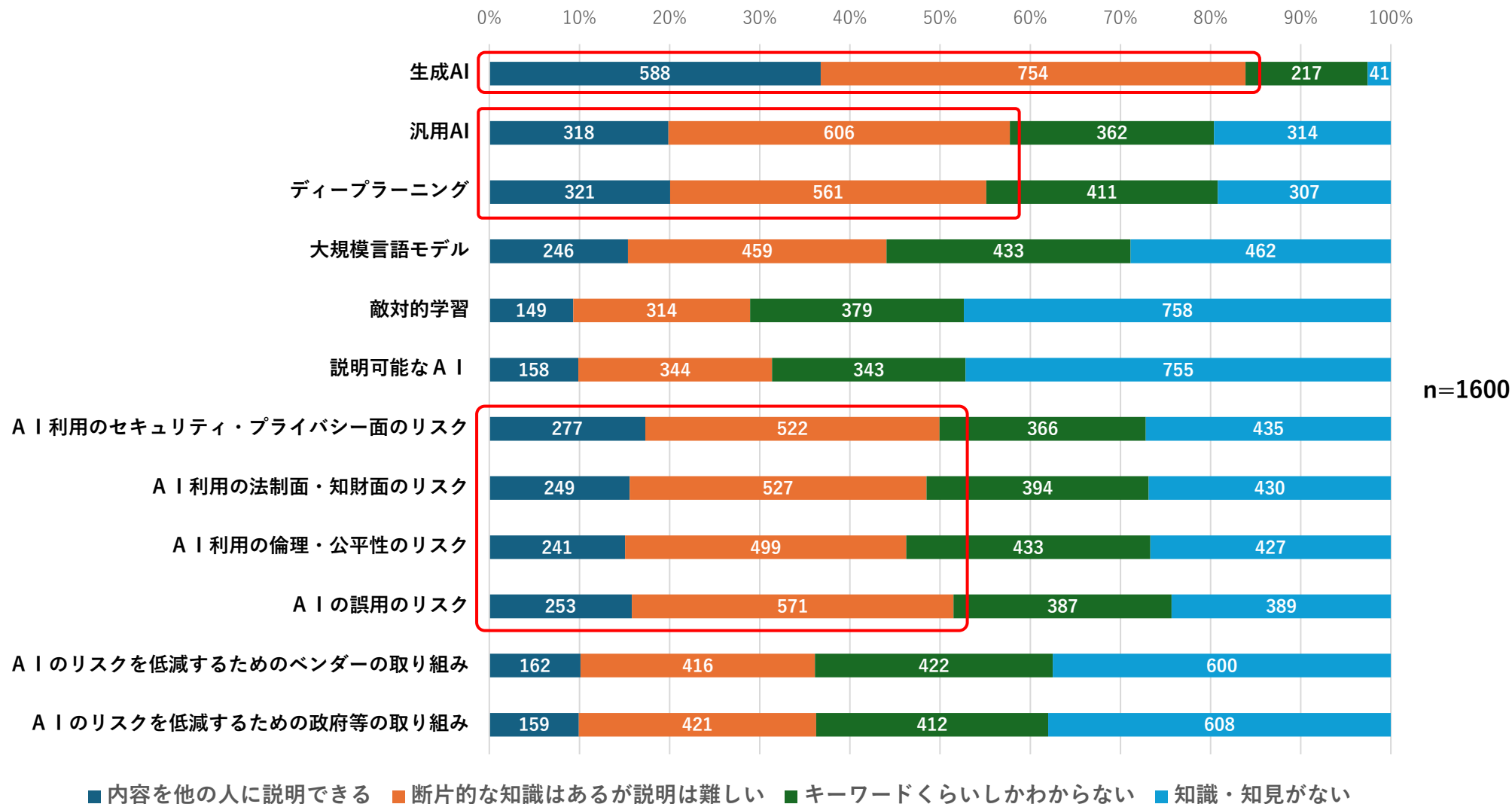
- 回答者のうち生成AIを利用する・したことがある人は97.3%
(1557/1600)、分類AIを利用する・したことがある人は54.8%
(877/1600)

分析

- 生成AIの利用は業種・企業規模を問わず短期間（3年程度）で広まっている
- 分類AI利用者はほぼ生成AIも利用している

3.3 利用者のAI知識自己評価

SC7: AIに関する理解の程度について、各項目についてあてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.3 利用者のAI知識自己評価：結果と分析

結果

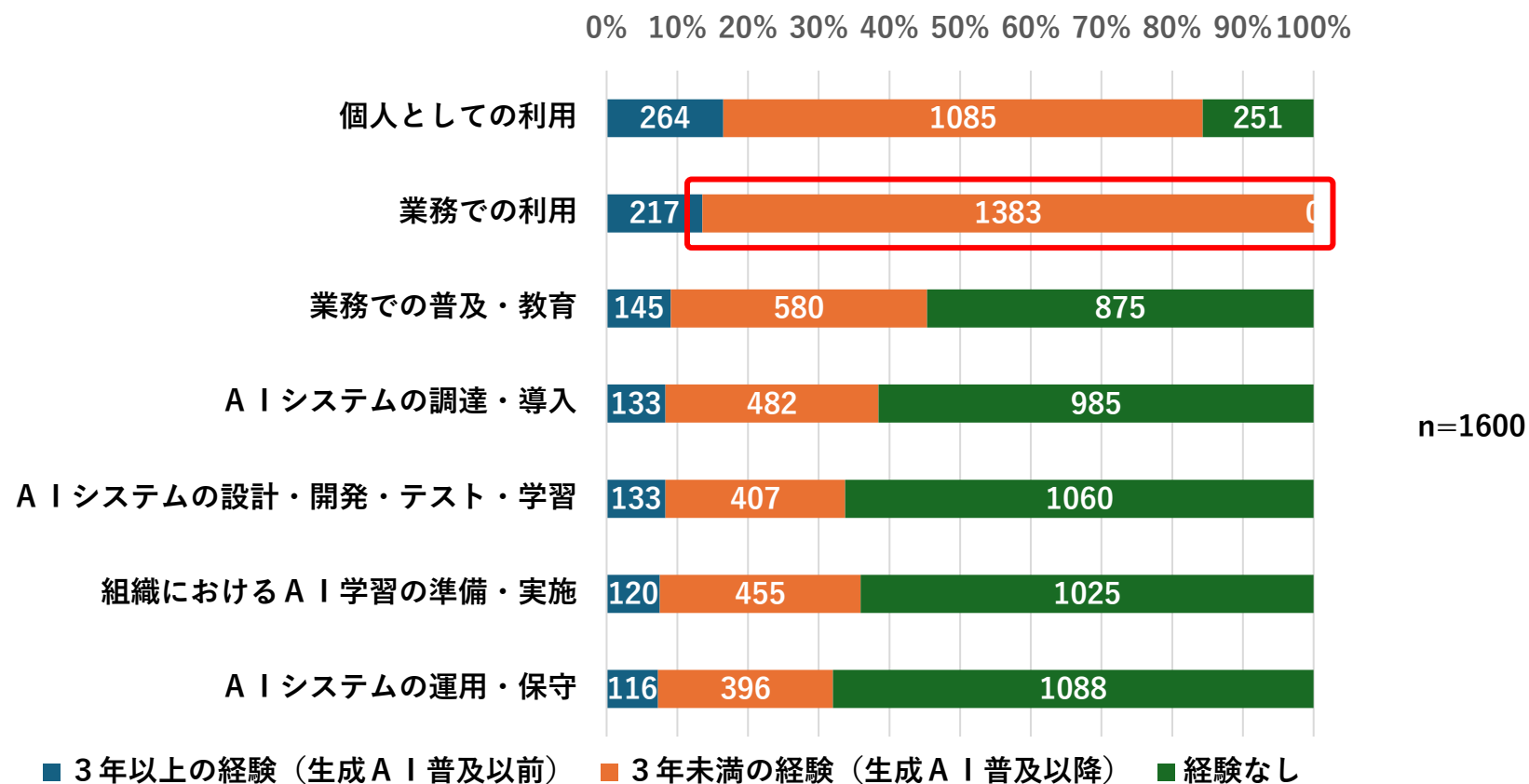
- 生成AIについて「説明できる・断片的な知識はある」人は83.9%（1342/1600）で突出、汎用AIの知識は57.8%（924/1600）、ディープラーニングの知識は55.1%（882/1600）でそれに次ぐ
- セキュリティ・コンプライアンス・倫理・誤用等のリスクの知識については50%前後

分析

- 生成AIの知識の突出は3.2節の回答の状況（利用している・したことがあるが97.3%）の反映と推定される
- AIアルゴリズムの知識（ディープラーニング、敵対的学習）は基本的なものに留まると推定される
- AIリスクの知識について突出して高いカテゴリはない。後続の質問でセキュリティの脅威は他のカテゴリより深刻とされたが、知識は同程度であった

3.4 AI利用経験値

Q2:AI利用に関するあなたの過去から現在までの経験について、以下の項目についてあてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.4 AI利用経験値：結果と分析

結果

- 業務でAIを利用する人の経験年数が3年未満なのが86.4%(1383/1600)
- 業務利用する人で個人利用の経験年数3年未満が67.8% (1085/1600)

分析

- 経験年数3年未満（生成AI普及以降）の人が回答者の86%であり、利用の経験値の少なさが回答に反映している可能性がある。3.3節質問の知識の自己評価にも経験値の少なさが反映した可能性がある
- 経験年数3年未満の人が生成AIのみを利用しているとは限らない。分類AI利用は生成AI利用の約半分あり、経験年数の少ない人が分類AIも使っていると推定される

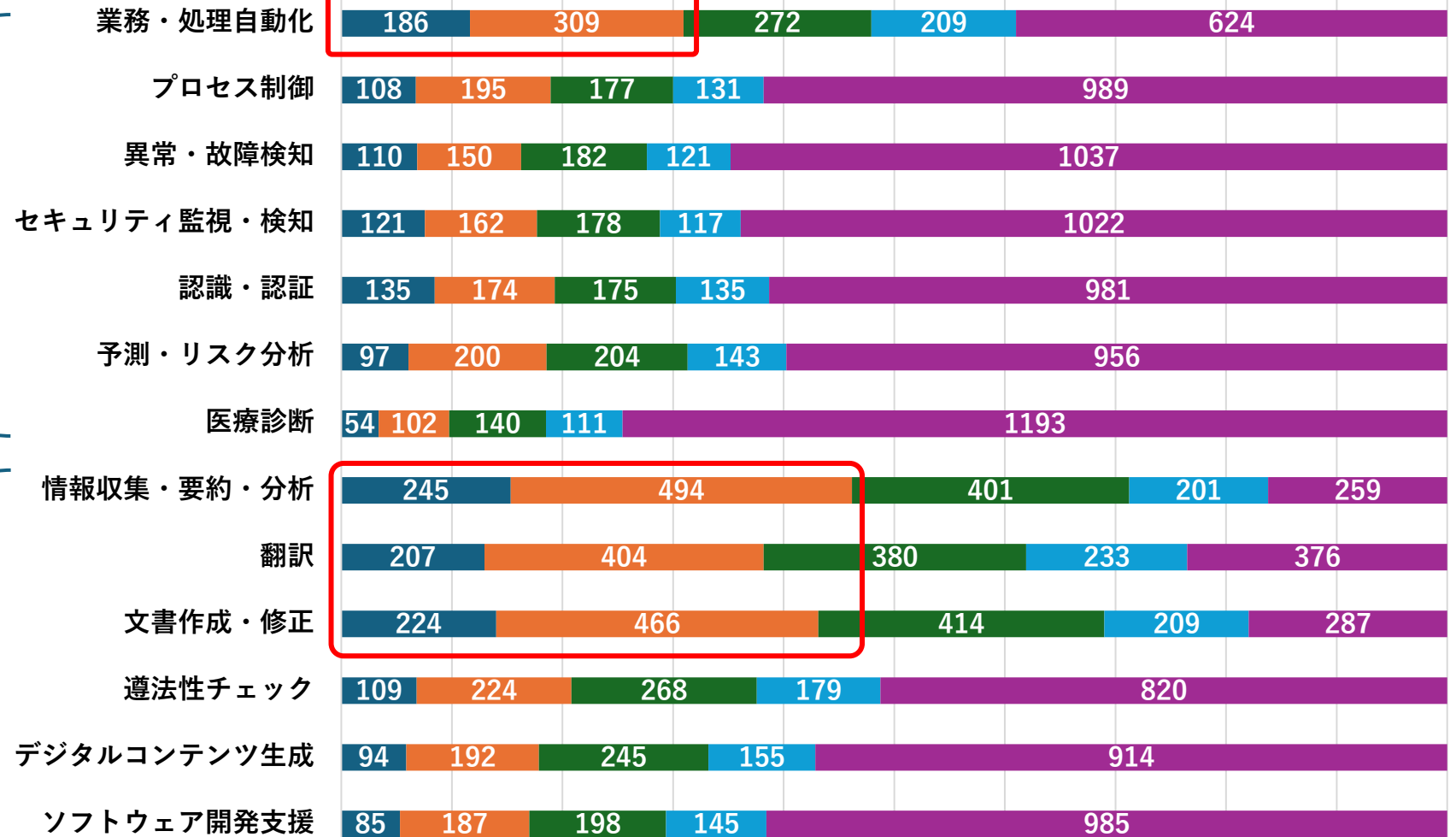
3.5 AI利用分野と利用頻度

Q4:AIの利用分野と利用頻度について、各項目であてはまるものを1つだけ選んでください

分類AI

n=1600

生成AI



高頻度利用と定義

■ 毎日使う ■ 週数日使う ■ 月数日使う ■ 過去に使ったことがある ■ 使ったことがない

3.5 AI利用分野と利用頻度：結果と分析

結果

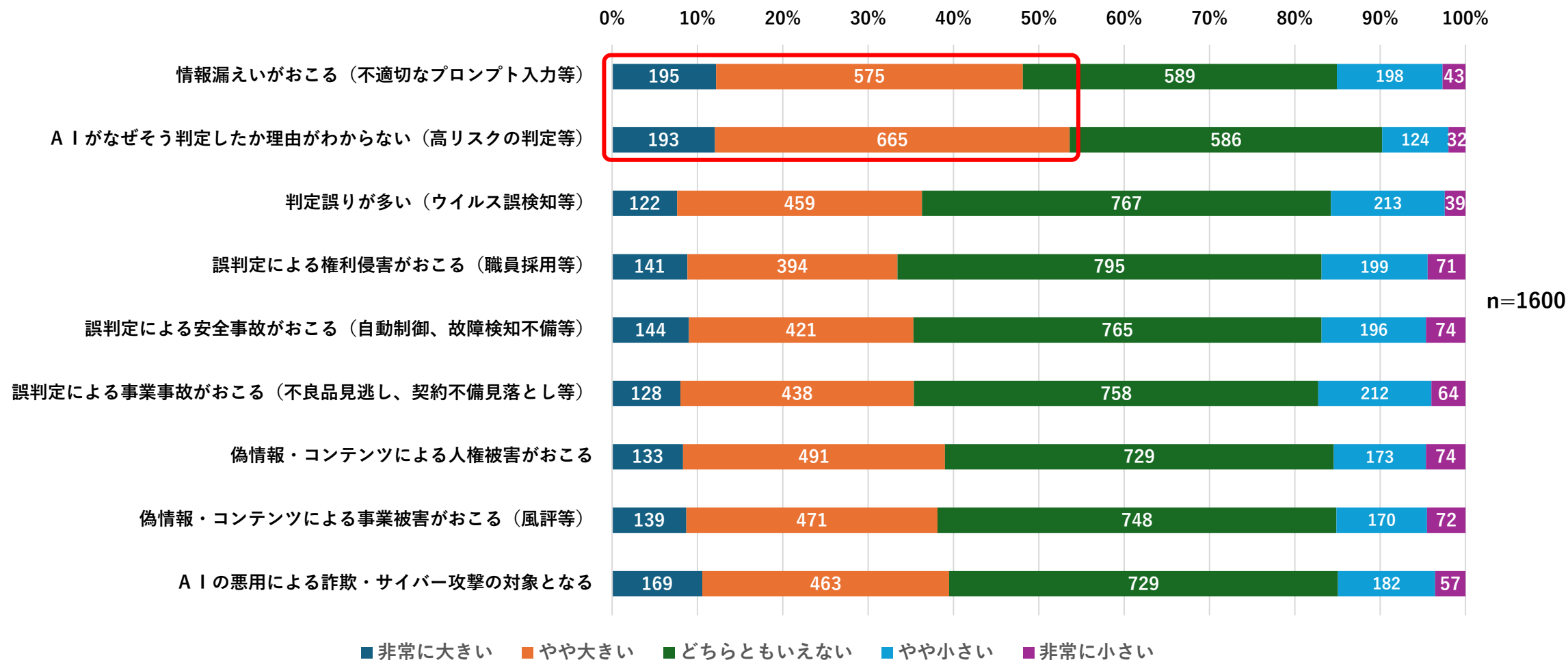
- 「毎日使う」「週数日使う」を「高頻度」と定義すると、高頻度の割合が高いのは生成AI利用の「情報収集・要約」（46.1%）、「文書作成」（43.1%）、「翻訳」（38.2%）、次いで分類AI利用の「業務処理自動化」が30.9%
- 生成AI利用の「コンテンツ生成」は17.9%、「ソフトウェア開発」は17.0%が高頻度

分析

- 情報収集・要約・文書作成等の個人の業務支援が高頻度である傾向がみえる
- コンテンツ生成・ソフトウェア開発支援では高頻度で利用されているとはいえない。回答者の年齢構成（40代以上が85.9%）が影響した可能性が推定される

3.6 AIの信頼性に関する不安

Q7: あなたの職場では、AI利用の信頼性・安全性に関する懸念や不安はどの程度大きいと思いますか。
下記項目について、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.6 AIの信頼性に関する不安：結果と分析

結果

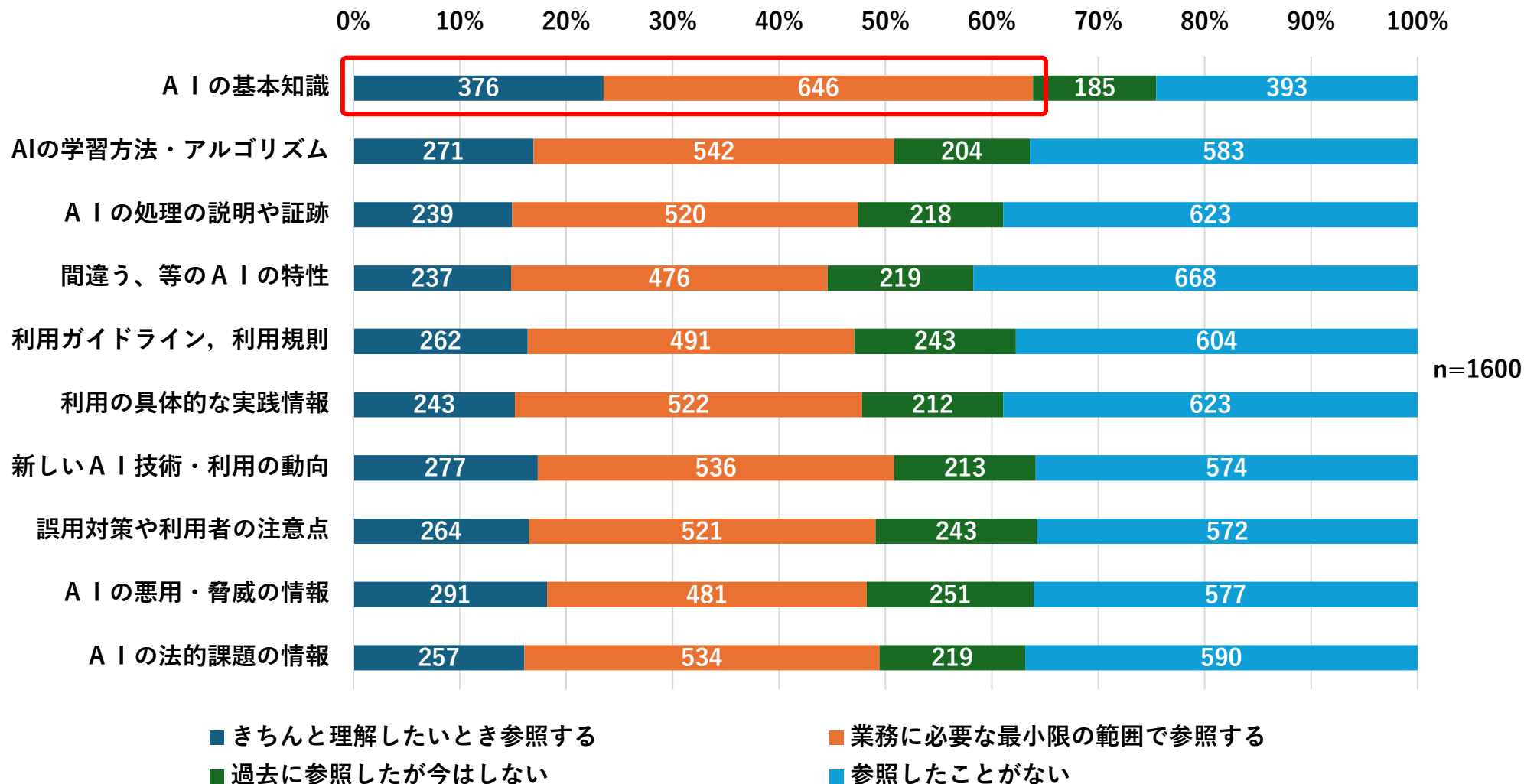
- 「不安がやや大きい」までを含めると、「情報漏えい」が48.1% (770/1600)、「判定した理由がわからない」が53.6%(858/1600)で突出

分析

- 「情報漏えい」に対する不安の大きさは、生成AI利用の多さの反映と推定される
- 「判定した理由が不明」が最大の不安要因となった背景は精査が必要。AIの利用経験の不足から『この出力はどうやって出てきたのか、信用していいのか』という漠然とした不安が大きい可能性がある

3.7 利用のために参照したい情報

Q9: 職場におけるAIの利用について、必要に迫られ、あるいは自ら興味を持って参照する情報はどのようなものですか。下記項目について、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.7 利用のために参照したい情報：結果と分析

結果

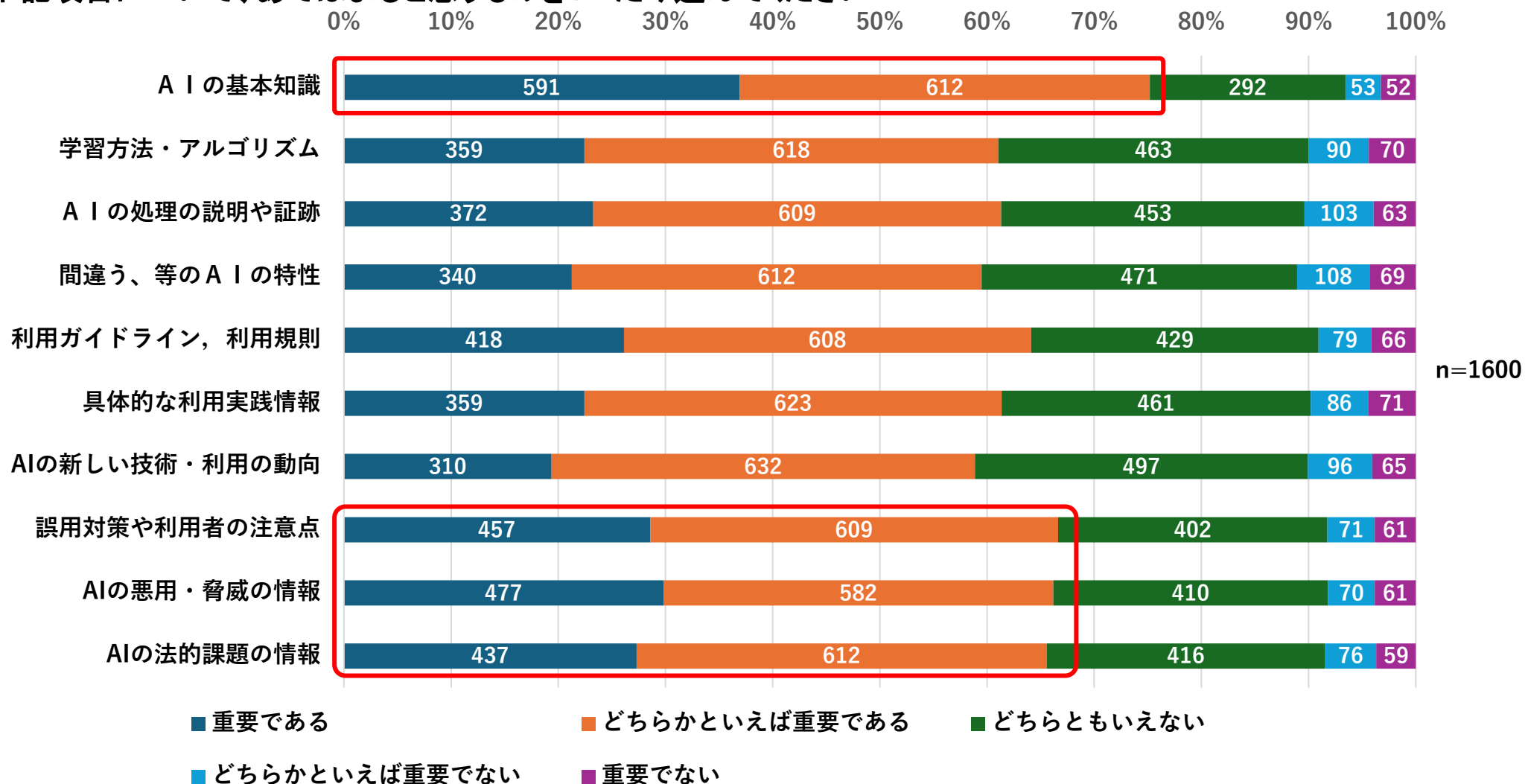
- 「きちんと理解したいとき」「必要最小限の範囲で」を「参照する」に含めると、「AIの基本知識」が63.9%(1022/1600)で突出
- 「過去に参照したが今はしない」と「参照する」の参照情報ごとの回答の比はほぼ1：3から1：4の範囲
- 各情報について「参照したことがない」の回答割合は20%～30%程度

分析

- 「基本知識」の参照の突出も、利用経験値の不足の反映と推定される
- 「過去に参照したがもうしない」が相対的に少なく、情報参照は継続的にされていると推定される
- 何も情報を得ずにAIを利用している人が一定程度存在すると推定される

3.8 参照したい情報の重要性

Q10: 参照したい情報を理解しておくことは、あなたの職場でAIを有効に利用するために重要だと思いますか。下記項目について、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.8 参照したい情報の重要性：結果と分析

結果

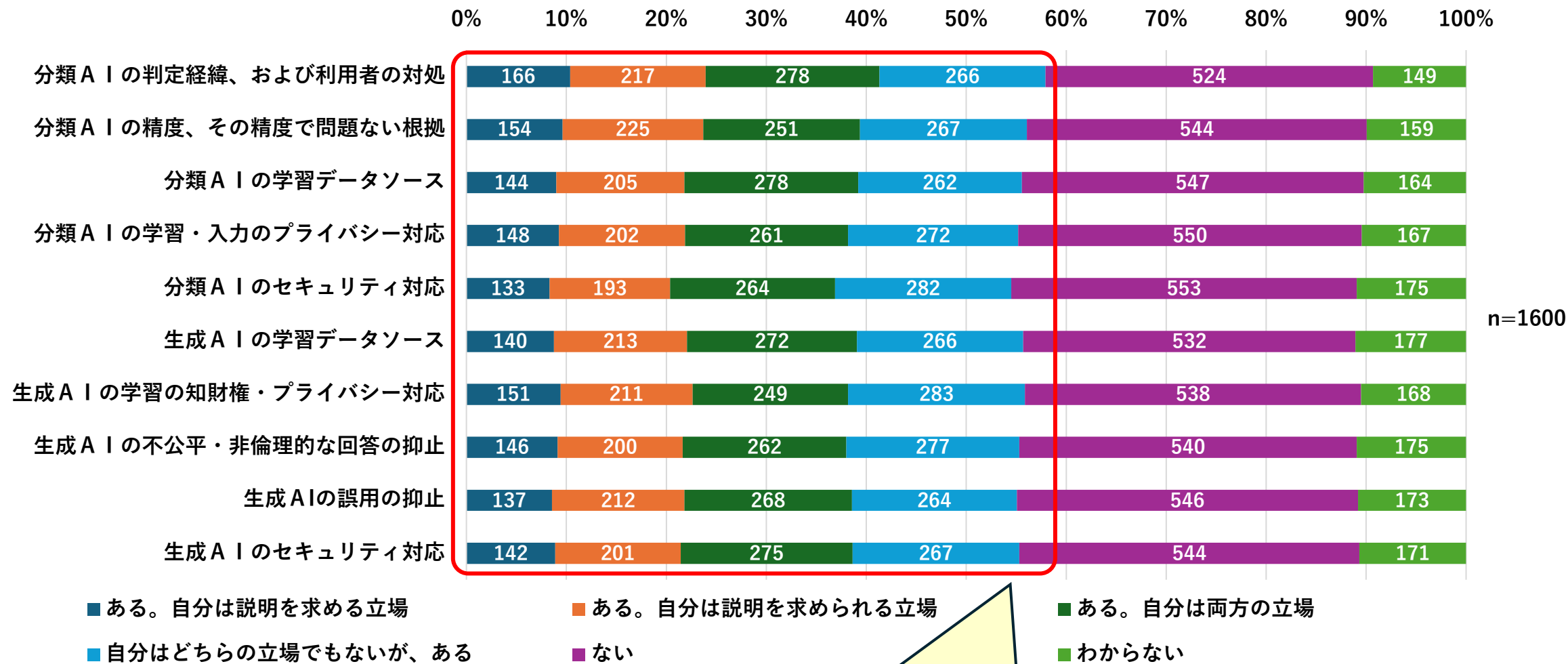
- 「どちらかといえば重要」までを「重要」とすると、「基本知識」が75.2% (1203/1600) で突出。「重要である」単独では36.9%
- 次いで「誤用対策・利用の注意点」が66.6% (1066/1600)、「悪用・脅威の情報」が66.2% (1059/1600)、「法的課題」が65.6% (1049/1600)
- 「AIの処理の説明や証跡」は61.3% (981/1600)で、誤用・悪用・法的課題の項目に次ぐ

分析

- 「基本知識の重要性」の突出は利用経験の不足の反映と推定される
- 利用の不安要因として、3.6節の回答で「判定理由がわからない」が「情報漏えい」とともに突出したが、重要な情報として「処理の説明や証跡」が突出しない。この状況は精査が必要

3.9 説明の実践状況

Q13: 職場において、AIの動作や分類・判定結果について、だれかに説明を求めたり誰かから求められたりすることがありますか。下記項目について、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.9 説明の実践状況：結果と分析

結果

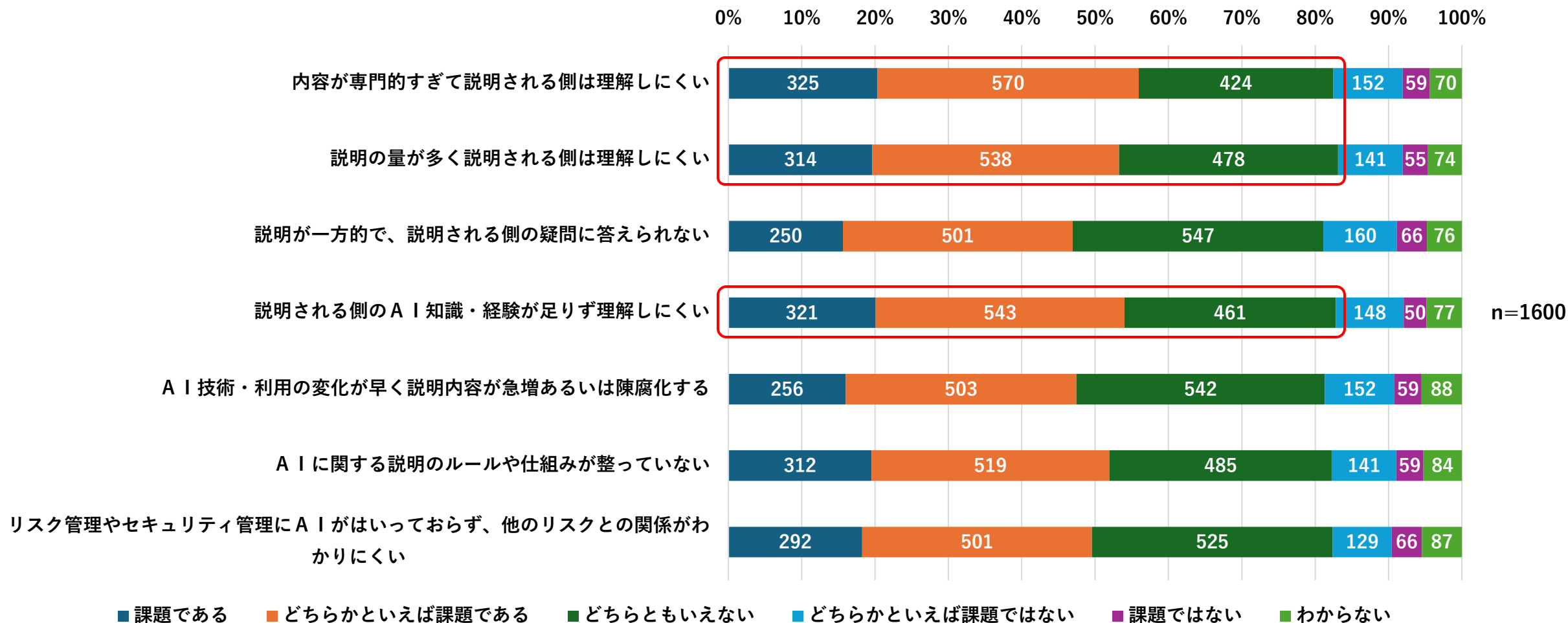
- 自分の立場によらず、組織内の説明実践が「ある」と回答したのは、最大が「分類AIの判定経緯」で57.9%(927/1600)、最小が「分類AIのセキュリティ」で54.5%(872/1600)で、説明項目によらず大きく変わらない
- 判定経緯や対処の説明とデータ・セキュリティ・プライバシー・誤用等のリスクの説明がほぼ同等に実践されている

分析

- 3.2節の回答で、**分類AIの利用者が相対的に少ないにも関わらず、分類AIの説明実践がある、との回答が生成AIの説明実践と遜色がない状況**について、次の仮説が考えられる
 - AIの**知識の少なさを補う**ため、利用していない分類AIの項目の説明も求める

3.10 説明の実践における課題

Q15: 説明の実践に関して、あなたの職場にはどんな課題があると感じますか。下記項目について、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.10 説明の実践における課題：結果と分析

結果

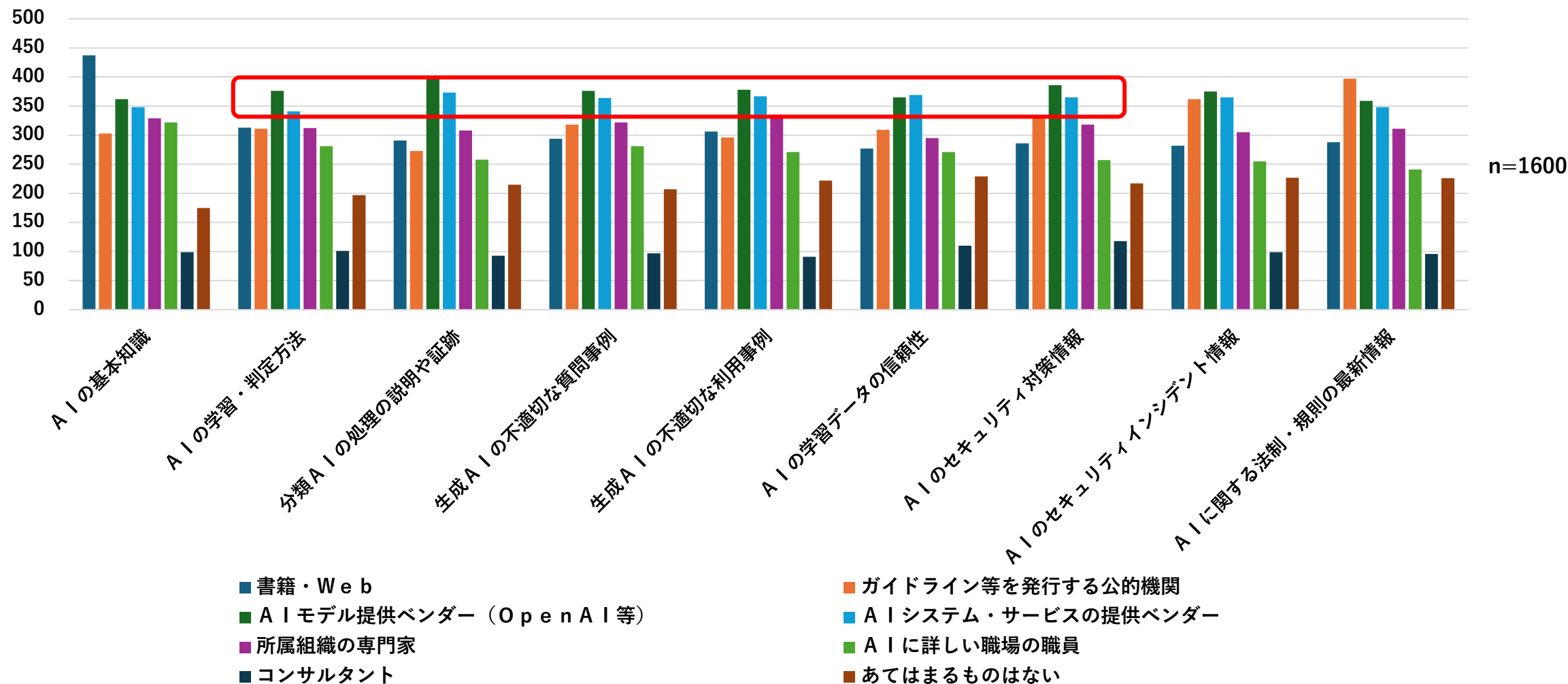
- 「どちらかといえば課題である」まで含めると、上位3項目は「内容が専門的すぎる」が55.9%(895/1600)、「説明される側の知識・経験不足」が54.0%(864/1600)、「説明量が多い」が53.2%(852/1600)である

分析

- 専門性の要請、知識・経験の不足、説明情報が膨大、が3つの課題として抽出された
- 3つの課題によって「AIへの漠然とした不安」が維持される可能性が推定される

3.11 説明の提供元

Q18: AIの理解を助ける説明を提供するのはどこ(どの組織)が望ましいと感じますか。下記項目について、あてはまると思うものを最大3つまで選んでください



3.11 説明の提供元：結果と分析

結果

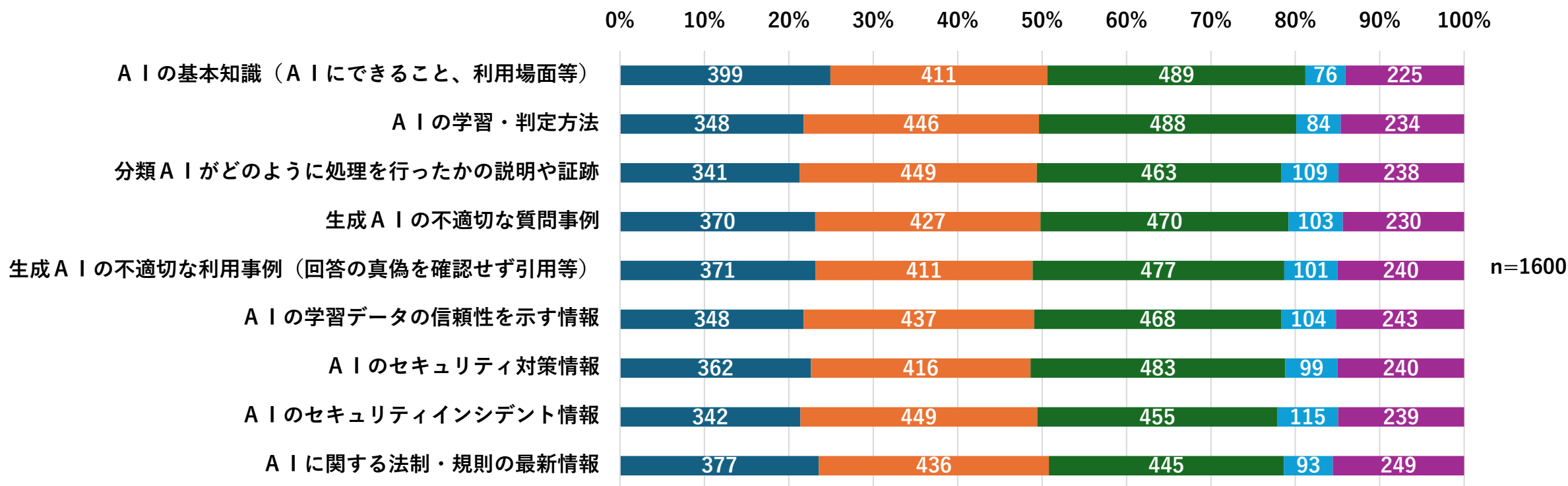
- 「AIの基本知識」の提供を求めたいのは専門家による書籍・Webが突出
- 技術、アルゴリズム、証跡、データ、利用事例、セキュリティ等の説明を求めたい組織はAIベンダー・サービスベンダー
- 法制・制度等の説明を求めたいのは公的機関

分析

- AIモデル、AIシステム・サービスの提供ベンダーへの期待が大きい
- 処理経緯・証跡に加え、適切な利用の説明への期待が大きい点が注目される

3.12 説明の提供形態

Q19: 以下の各項目の説明を文章・動画・音声等で提供する場合、どのような分量が望ましいと感じますか？下記項目について、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



- 重要事項を概説するPPTスライド (形態) スライドによる概説 (分量) 5ページ以内
- 事例や証跡を含む文書 (形態) PDF文書 (分量) 十数ページ以内
- 事例を含む動画 (形態) 動画による解説 (分量) 5分以内
- 説明コンテンツがあっても利用しない
- わからない

PPT、PDF、動画がほぼ均等

3.12 説明の提供形態：結果と分析

結果

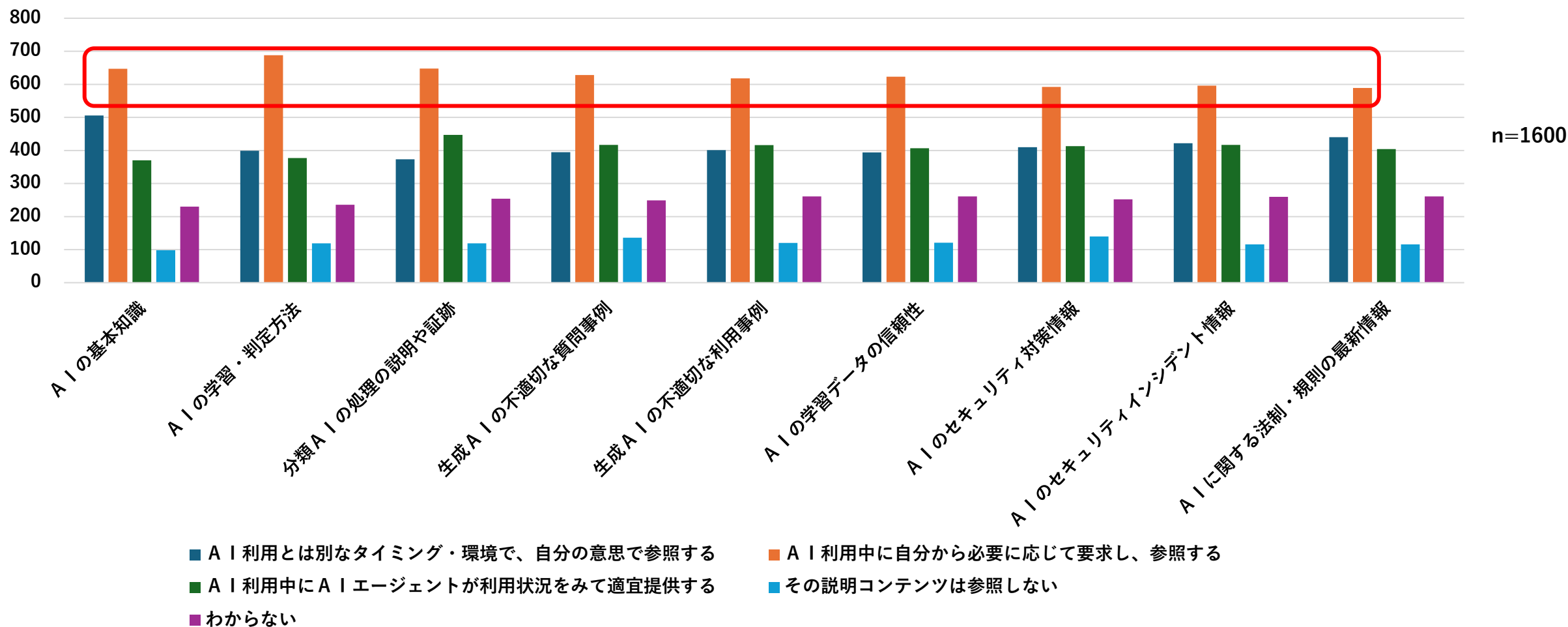
- 説明する内容によらず、プレゼンスライド（21～25%）、文書（25～28%）、動画（28～31%）がほぼ均等に求められた

分析

- プレゼンテーション・動画への要望が文章と同等であることから、
「正確だが専門的で大量」の情報提供だけでは不十分と推定される

3.13 説明の参照環境

Q20: 説明コンテンツはどのような環境で参照することが望ましいと感じますか。下記項目について、当てはまると思うものを選んでください（複数回答可）



3.13 説明の参照環境：結果と分析

結果

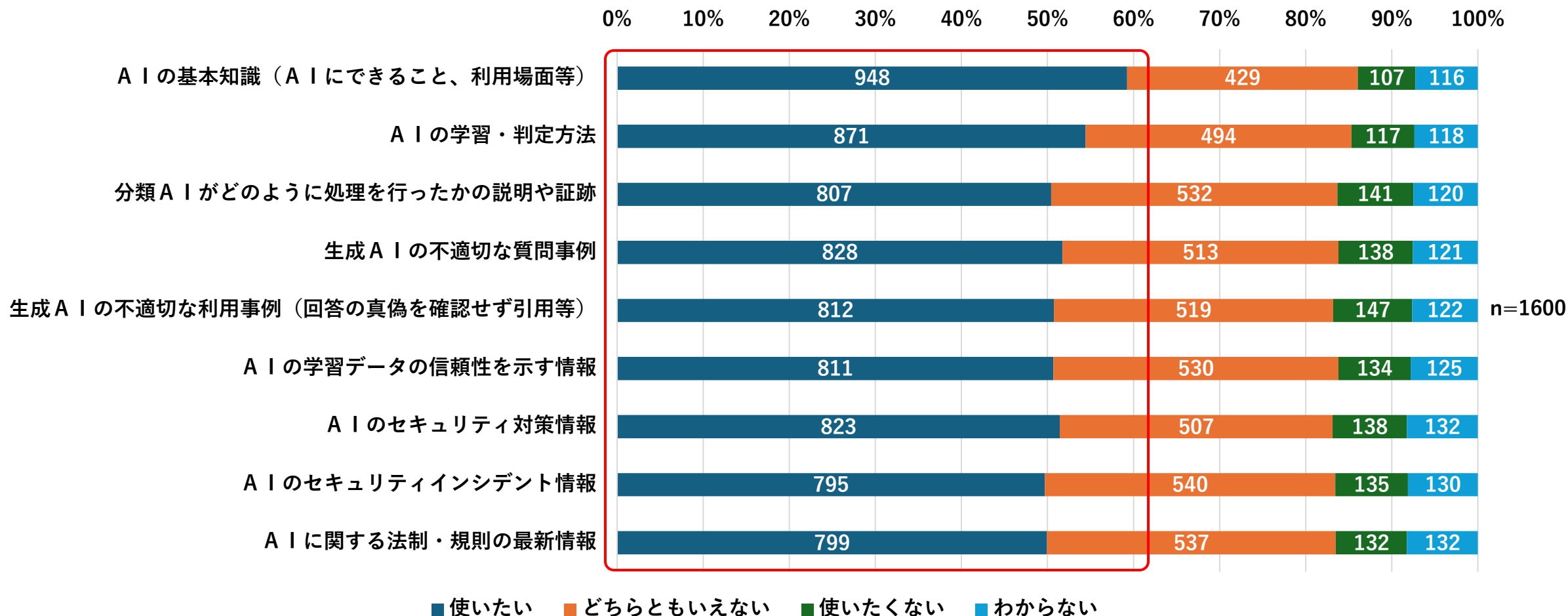
- 説明する内容によらず、全ての項目について「AI利用中に自分から必要に応じて要求し、参照する」が突出
- 「利用状況を見てAIエージェントが適宜提供」は「AI利用とは別なタイミング・環境で、自分の意思で参照」と拮抗

分析

- 事前に読んで理解する形態に加え、**利用中に不明点を解消する形態の要望が大**
- **利用中の説明**はAIシステムの理解を深め、安全・セキュアな利用に有効となる可能性がある

3.14 説明用生成AIに対する意識

Q21: 説明用生成AIがあるとしたら、あなたは使いたいと思いますか？下記項目について、あてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.14 説明用生成AIに対する意識：結果と分析

結果

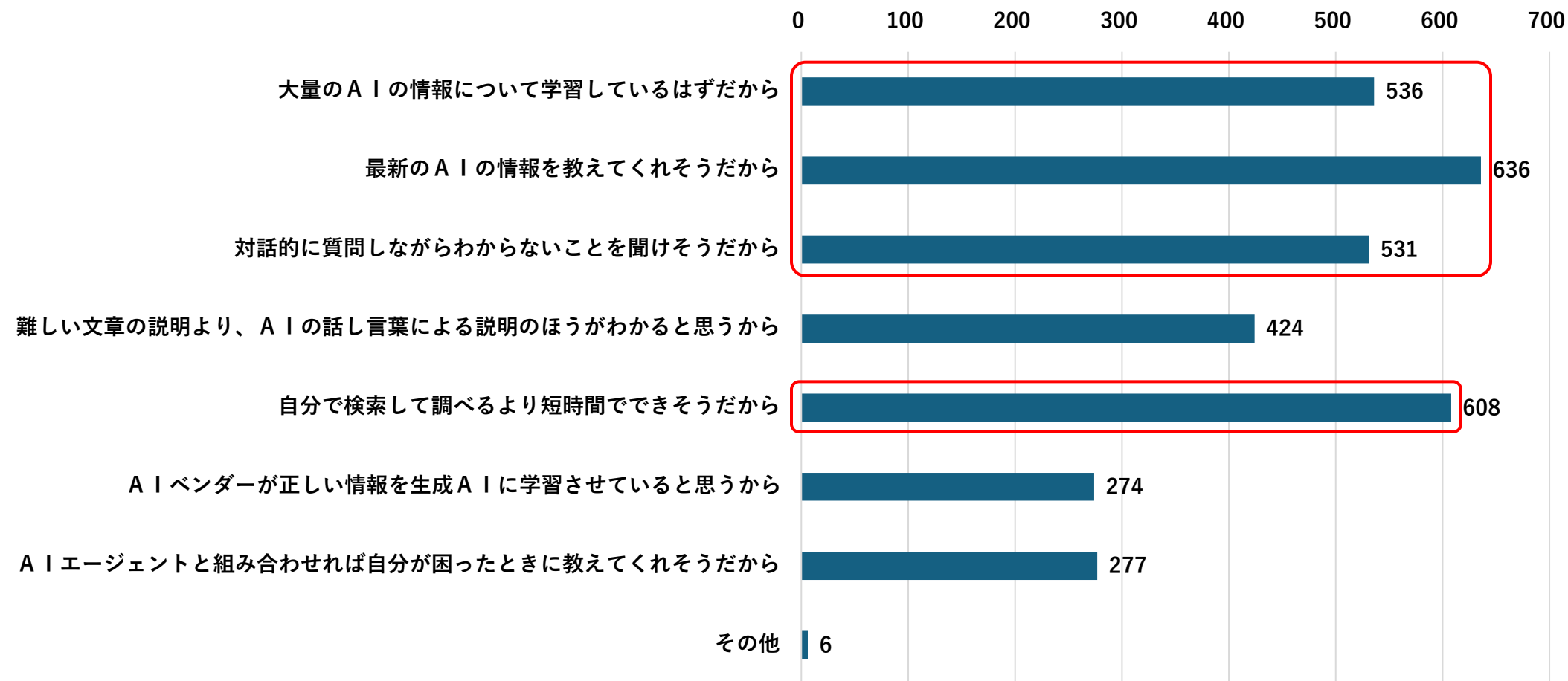
- 「使いたい」は49.7%（インシデント情報、795/1600）～59.2%（基本知識、948/1600）の範囲
- 「どちらともいえない」は26.8%（基本知識、429/1600）～33.8%（インシデント情報、540/1600）の範囲

分析

- 3.13節の回答で「AI利用中に自分で参照」への要望が突出しているのは、説明用生成AIへの期待もあると推定される
- 基本知識、学習・判定方法の説明をより求める傾向も確認された

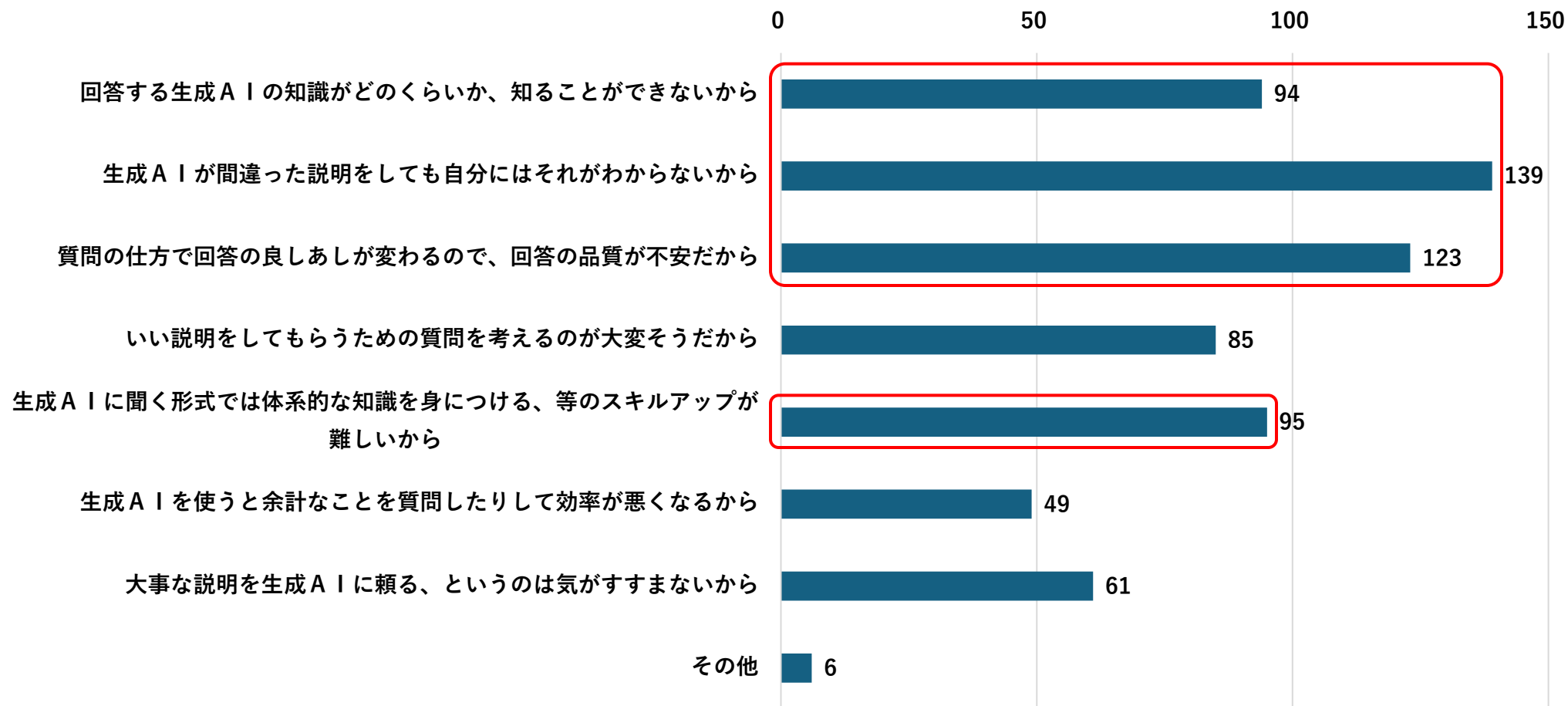
3.15 説明用生成AIを使いたい/使いたくない理由

Q22: 1つ以上の項目で「**使いたい**」と回答した人にお聞きします。使いたいと思う理由はなんですか
(複数回答可)



3.15 説明用生成AIを使いたい/使いたくない理由

Q23: 1つ以上の項目で「**使いたくない**」と回答した人にお聞きします。使いたくないと思う理由は为什么呢(複数回答可)



3.15 説明用生成AIを使いたい/使いたくない理由：結果と分析

結果

- 「使いたい理由」は「最新の情報を提供」「短時間で効率的」「大量の学習への期待」「対話性」が上位
- 「使いたくない理由」は「間違った説明への対応」「質問で回答が変動」「AIの知識レベルが不明」「体系的な説明の困難」が上位

分析

- 説明用生成AIは、大量の知識・効率性・対話性等で期待が大きい反面、誤りの検知と対応・回答品質の変動などの課題がある。慎重な導入が必要と推定される

3.16 追加分析

企業規模と業種による 4 グループ比較

- 回答者を企業規模（大企業・中小企業）と業種（製造業・非製造業）に基づく 4 つのグループに分け、回答を比較
- グループ間の回答のパターンに大きな差はない
- があることを確認

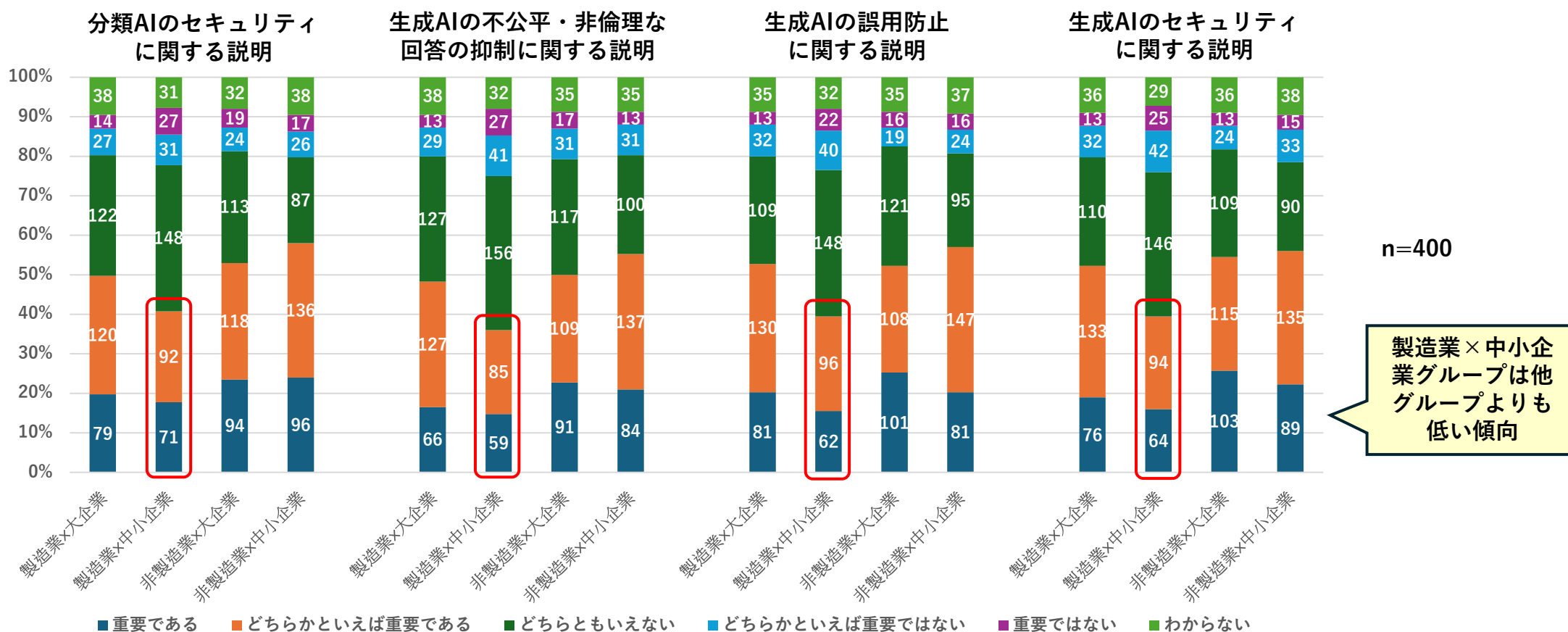
業種別分析「製造業・中小企業」グループに他グループと異なる傾向

- AIの説明に対して意識が高いと想定される 3 業種（医療・介護、通信・IT、金融）の回答を比較
- 説明に対する意識は医療・介護が最も高く、通信・IT、金融がそれに続いた

3.16 追加分析：4グループの比較分析

説明の**実施状況**についてはグループ間で**大きな差がなかったが**、**製造業×中小企業**グループは他グループと比べ**重要性を低くとらえる傾向**にある

Q14: 以下の各項目に関する組織内への説明は重要だと感じますか。下記項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください

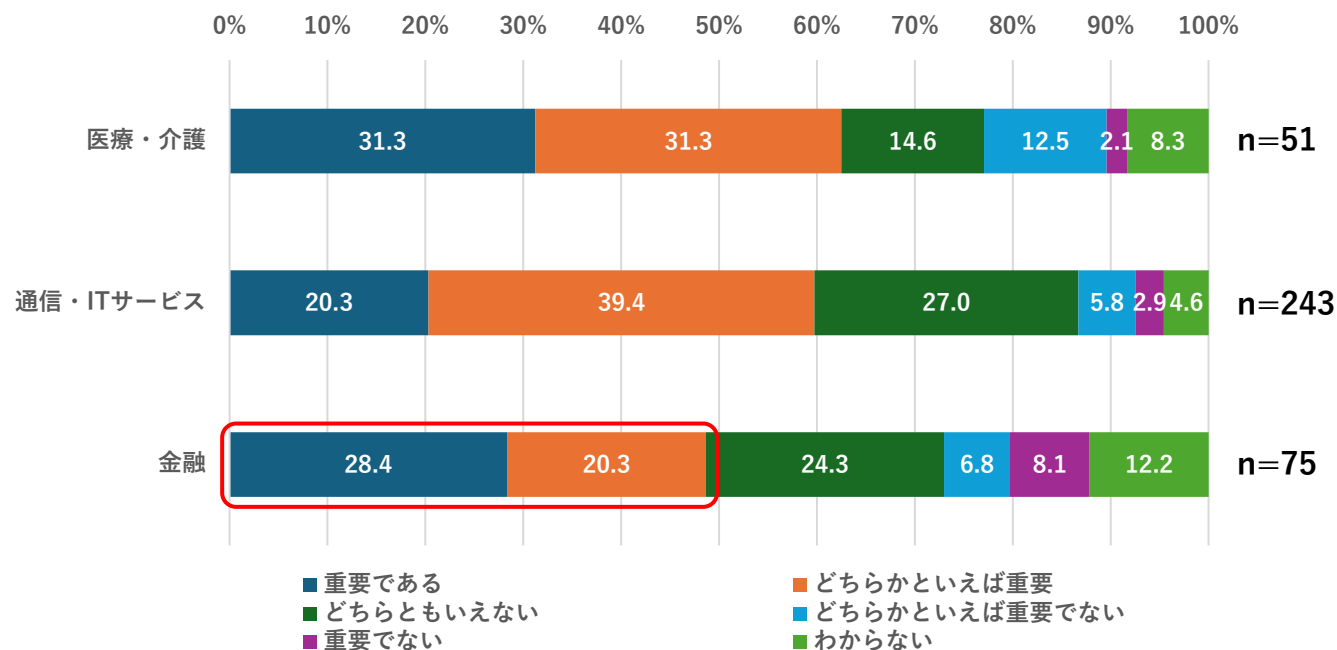


3.16 追加分析：業種別分析例

結果

金融において、「生成AIのセキュリティ」に関する説明の重要性の意識（重要、どちらかといえば重要 の総計）が相対的に低い傾向にある

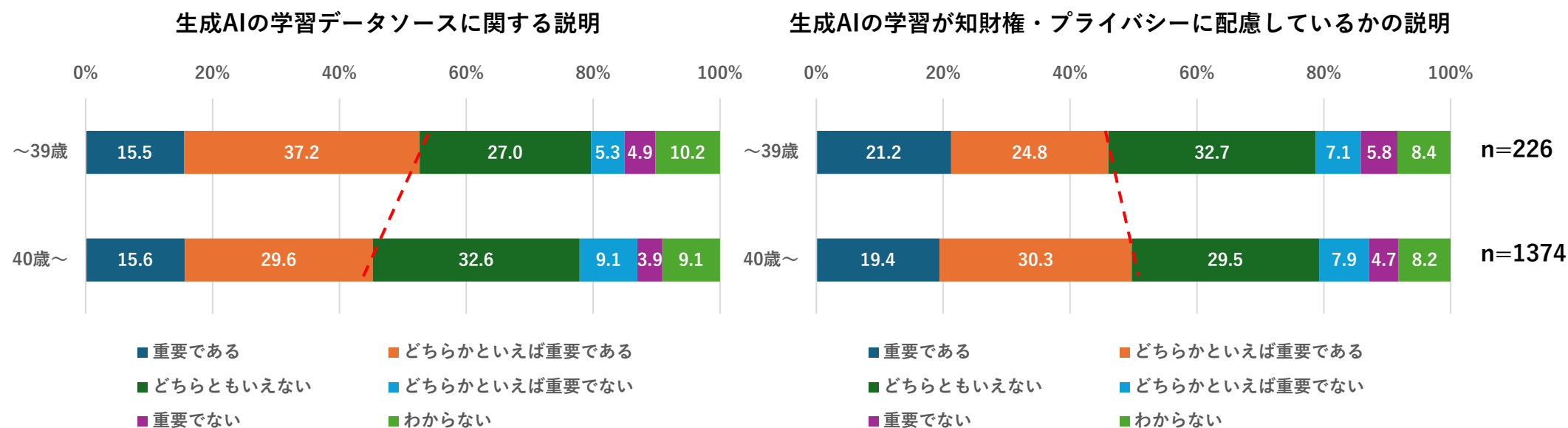
Q14: 生成AIのセキュリティが保たれているかの説明（不適切なプロンプトによる情報漏えい回避等）に関する組織内への説明は重要だと感じますか。もっともあてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.16 追加分析：年齢別分析例

- 39才以下の説明に対する重要性の意識は、40歳以上の意識と大きな差（重要・どちらかといえ
ば重要、に関する20%以上の乖離）はなかった
- 生成AIの学習においては、学習データとコンプライアンスに関わる説明の重要性について意識
の差がみられた

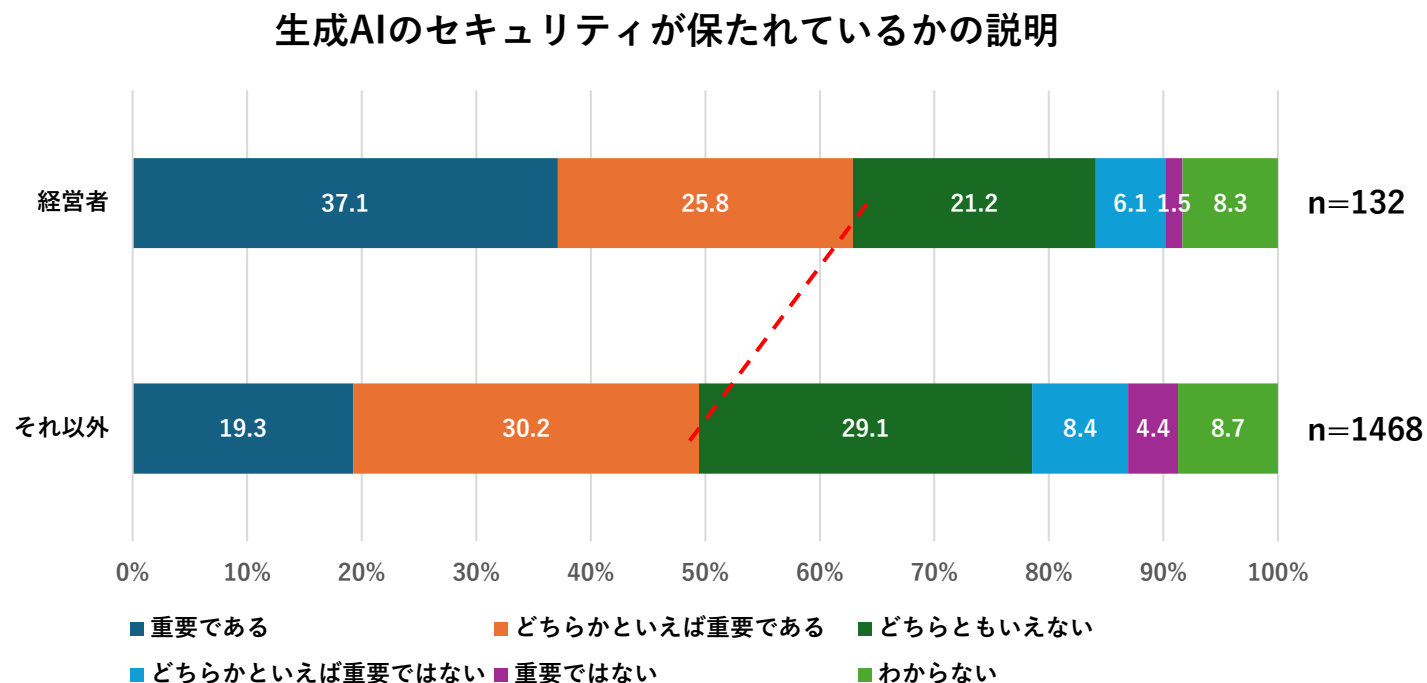
Q14: 生成AIの学習（学習データソース、知財権・プライバシーへの配慮等）に関する組織内への説明は重要だと感じますか。もっともあてはまると思うものを1つだけ選んでください



3.16 追加分析：経営者の説明に対する意識

経営者の説明に対する重要性の意識は、一般職員と比較して高い傾向（～15%の差）を示した。生成AIのセキュリティに関する説明の重要性では13.4%の差があった

Q14: 生成AIのセキュリティが保たれているか、の組織内への説明は重要だと感じますか。もっともあてはまると思うものを1つだけ選んでください



4. 調査結果のまとめ

業務でのAI利用状況

- 生成AIは業種・事業規模によらず広く利用されているが、高頻度の用途は情報収集・文書作成の効率化で、基幹業務への活用は本調査では未知数
- 分類AIは製造業・非製造業いずれでも業務自動化・効率化等の目的で使われるが、利用者・頻度は生成AIに比べ限定的である
- 経験年数3年未満のAI利用者が多い

AIの信頼性に関する説明への意識

- 利用経験・学習経験が少ないことから、基本知識の獲得を求める声大きい
- AIの処理経緯の透明性は懸念としては大きいですが、透明性の説明とセキュリティ・プライバシー・コンプライアンス・誤用等のリスクの説明は同程度に求められている
- 処理経緯・リスクの説明は回答者の50%の職場で実践されている
- 説明の形態は「事前に読んで理解」に加え、「AI利用中に自分で参照」を求める声が大きく、媒体もプレゼン、文書、動画等の複数の形態が求められている
- 利用者の基本知識への希求を考慮すると、透明性やリスクの説明において、基本知識との紐づけが容易な説明が有用であると思われる
- 上記の「AI利用中に自分で参照」において、生成AIを期待する声大きいですが、説明の誤りの検知/対応・説明品質の変動等の課題がある

